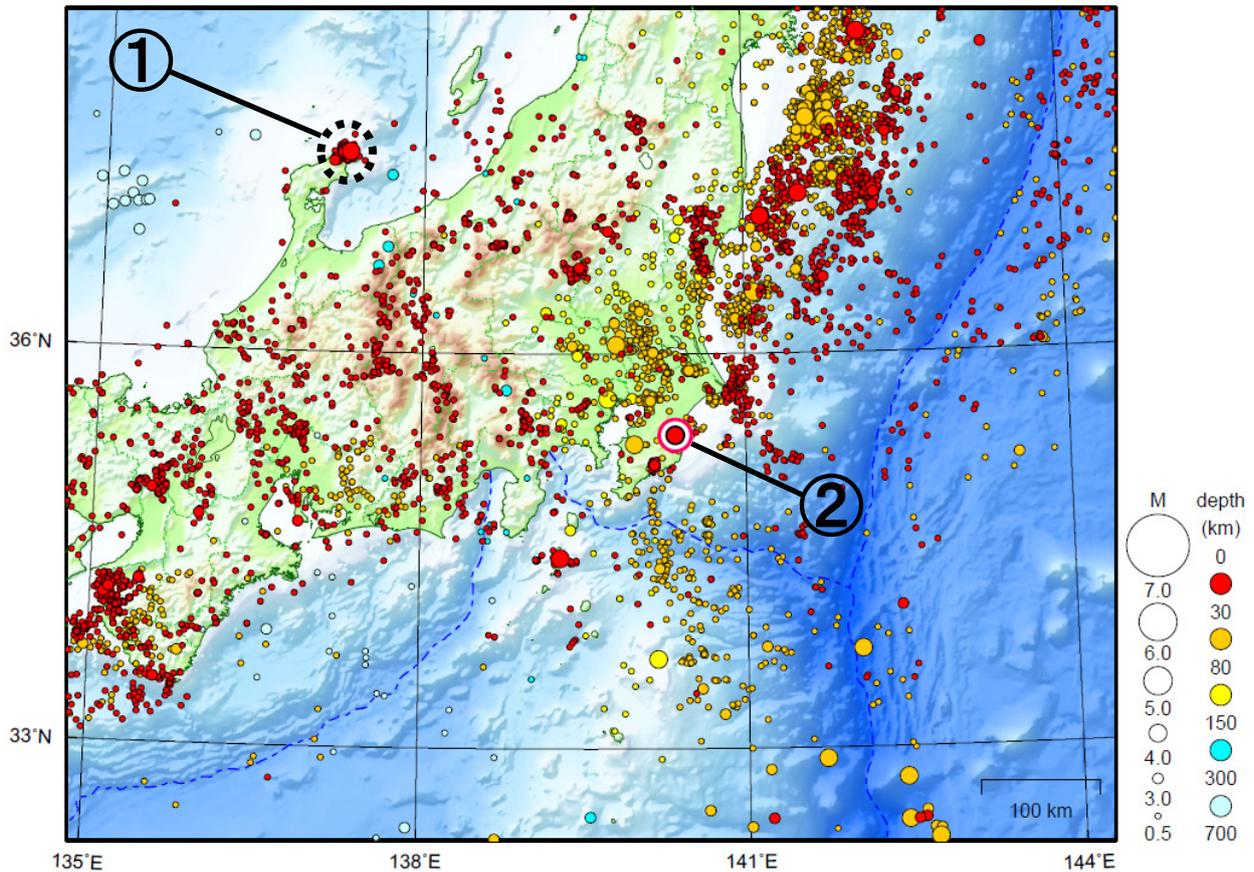


関東・中部地方

2022/12/01 00:00 ~ 2022/12/31 24:00

N=8102



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 石川県能登地方では12月中に最大震度1以上を観測した地震が13回（震度3：2回、震度2：2回、震度1：9回）発生した。このうち最大規模の地震は、9日のM4.1の地震（最大震度3）である。

能登半島沖で発生した地震を1回含む。

- ② 12月19日に千葉県北東部でM4.1の地震（最大震度4）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は〔千葉県東方沖〕である。

（上記期間外）

1月6日に石川県能登地方でM4.5の地震（最大震度4）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

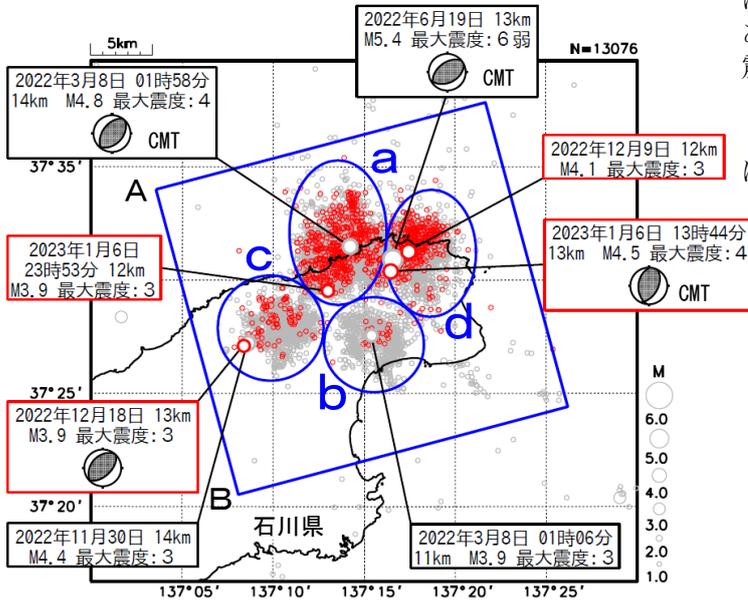
石川県能登地方の地震活動

震央分布図

(2020年12月1日～2023年1月10日、
深さ0～25km、 $M \geq 1.0$)

2022年12月以降の地震を赤色で表示

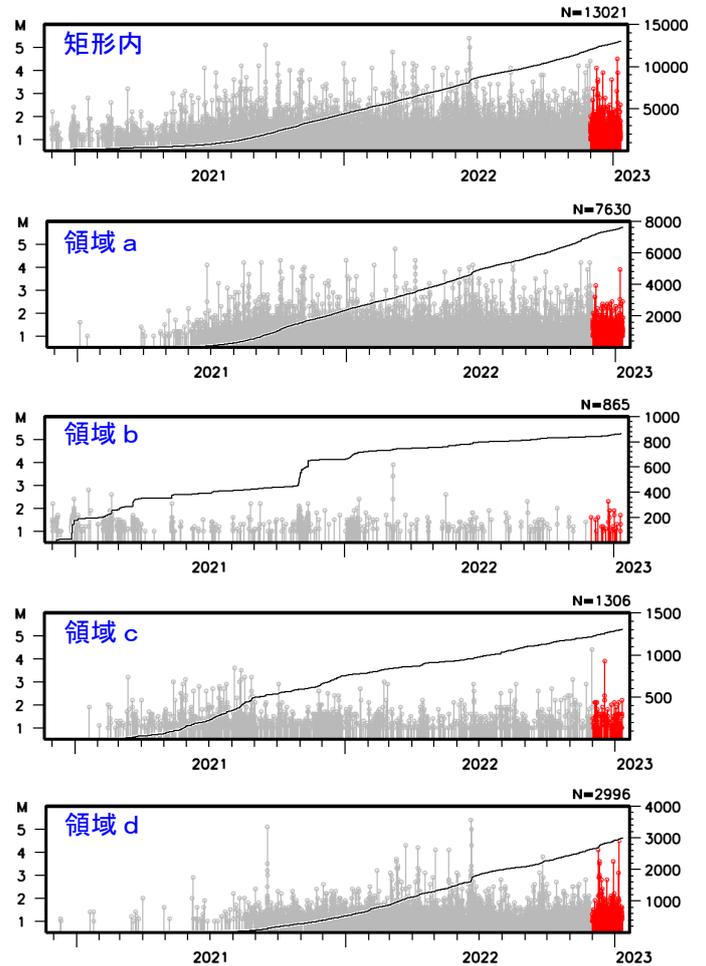
- ・ 黒色の吹き出し：領域a～dの各領域内で最大規模の地震
- ・ 赤色の吹き出し：矩形内で2022年12月中の最大規模の地震及び2022年12月以降に震度3以上を観測した地震



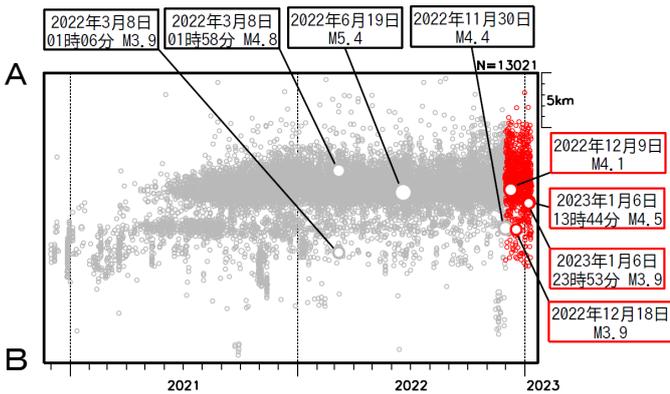
石川県能登地方（矩形内）では、2018年頃から地震回数が増加傾向にあり、2020年12月から地震活動が活発になり、2021年7月頃からさらに活発になっている。2022年12月中も活発な状態が継続している。2022年12月中の最大規模の地震は、9日に発生したM4.1の地震（最大震度3）である。なお、活動の全期間を通じて最大規模の地震は、2022年6月19日に発生したM5.4の地震（最大震度6弱）である。

矩形領域内で震度1以上を観測した地震の回数は期間別・震度別の地震発生回数表のとおり。

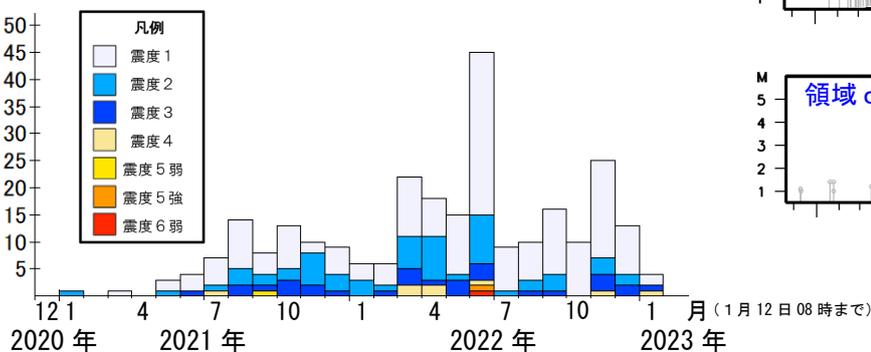
左図矩形内及び領域a～d内のM-T図及び回数積算図
(2020年12月1日～2023年1月10日)



上図矩形内の時空間分布図 (A-B投影)



矩形内の地震の月別震度別発生回数
(2020年12月1日～2023年1月12日08時)



期間別・震度別の地震発生回数表

期間	最大震度別回数							計
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	
2020年12月1日～2022年11月30日	160	56	26	7	1	1	1	252
2022年12月1日～31日	9	2	2	0	0	0	0	13
2023年1月1日～12日08時	2	0	1	1	0	0	0	4
計	171	58	29	8	1	1	1	269

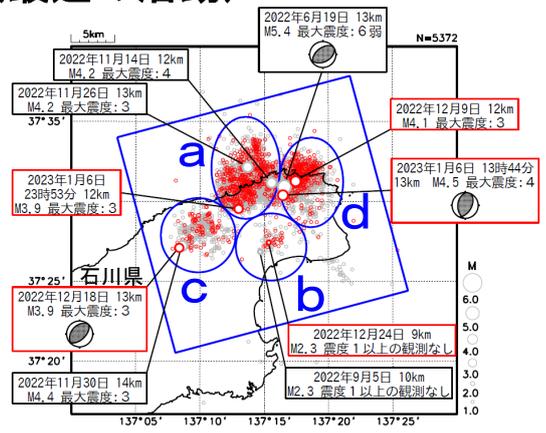
石川県能登地方の地震活動（最近の活動）

震央分布図

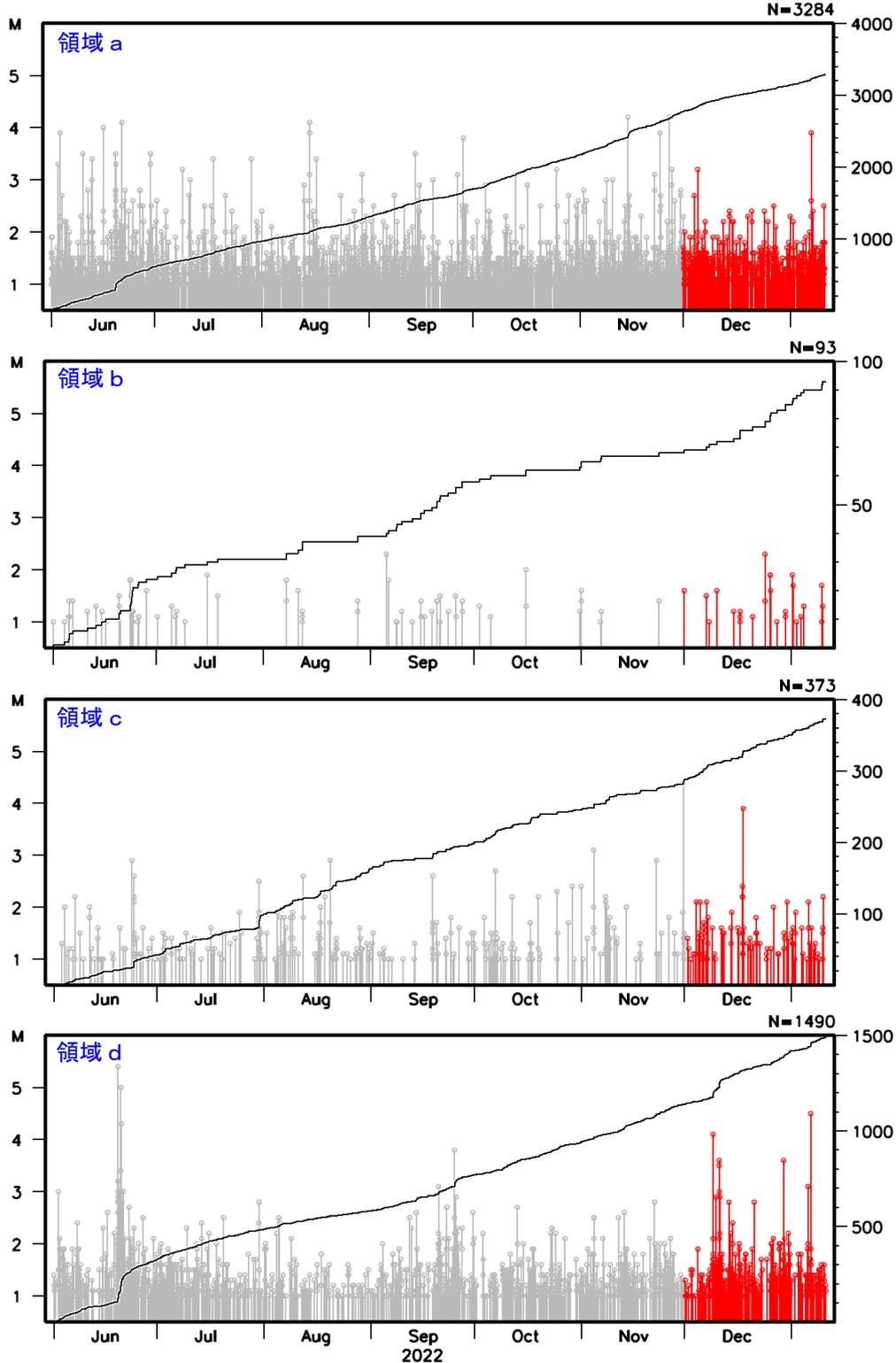
(2022年6月1日～2023年1月10日、
深さ0～25km、 $M \geq 1.0$)

2022年12月以降の地震を赤色で表示

- ・ 黒色の吹き出し：各領域内で期間内の最大規模の地震
- ・ 赤色の吹き出し：矩形内で2022年12月中の最大規模の地震、及び2022年12月以降に震度3以上を観測した地震



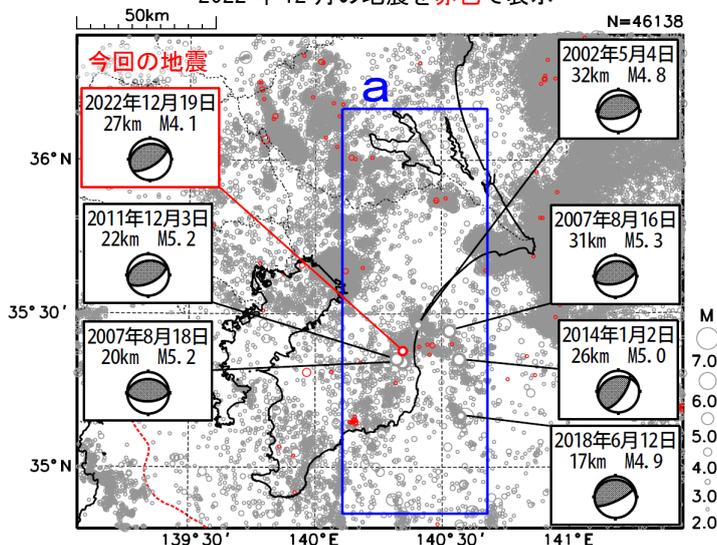
上図領域 a～d 内の M-T 図及び回数積算図



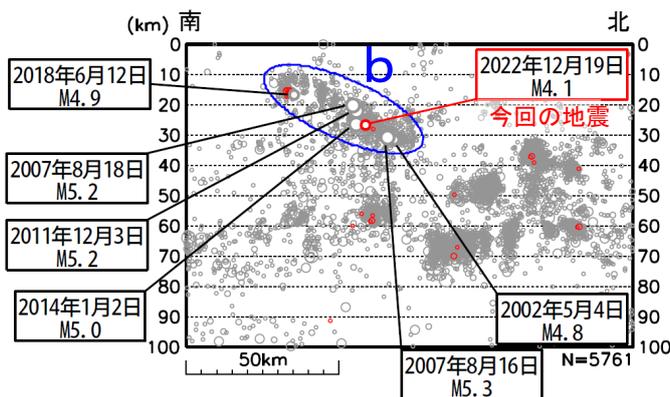
12月19日 千葉県北東部の地震

情報発表に用いた震央地名は〔千葉県東方沖〕である。

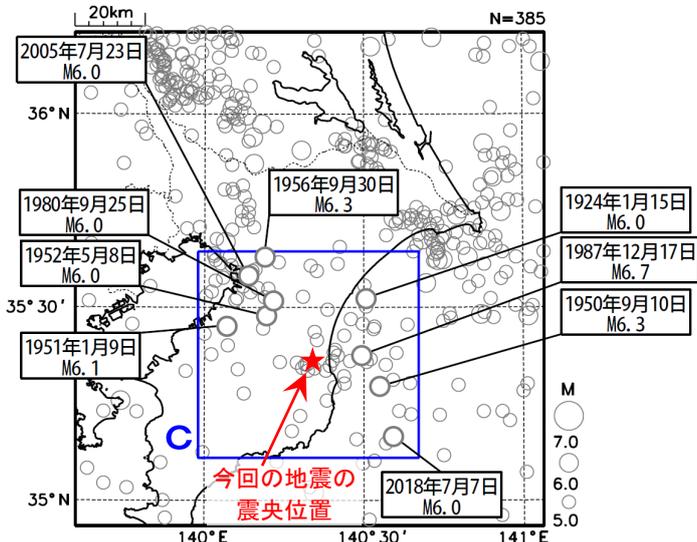
震央分布図
(1997年10月1日～2022年12月31日、
深さ0～100km、M \geq 2.0)
2022年12月の地震を赤色で表示



領域a内の断面図 (南北投影)



震央分布図
(1919年1月1日～2022年12月31日、
深さ0～100km、M \geq 5.0)

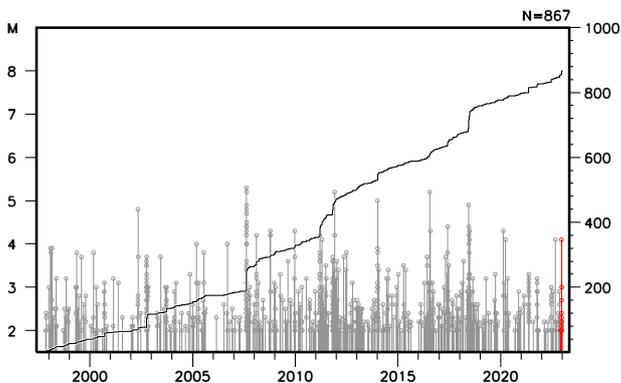


2022年12月19日00時02分に千葉県北東部の深さ27kmでM4.1の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構が北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、M4.0からM5.0程度の地震が時々発生している。2018年6月12日には、深さ17kmでM4.9の地震 (最大震度3) が発生し、領域bではまとまった地震活動がみられた。その地震活動と同期して、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界においてゆっくりすべりが発生している (第319回地震調査委員会資料より)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0以上の地震が時々発生している。1987年12月17日に発生したM6.7の地震 (最大震度5) では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家半壊102棟、住家一部破損72,580棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

